玉名市文化財調査報告　第10集

都市計画街路築地立願寺線道路改良工事に伴う埋蔵文化財の調査

今見堂遺跡・平町遺跡・蓮華遺跡

2002（平成14年）.3

玉名市教育委員会

玉名市文化財調査報告　第10集

都市計画街路築地立願寺線道路改良工事に伴う埋蔵文化財の調査

今見堂遺跡・平町遺跡・蓮華遺跡

2002(平成14年).3

玉名市教育委員会

ご　挨　拶

玉名市教育委員会では、玉名市築地において、都市計画道路築地立願寺線道路改良工事に伴い、路線内に所在する今見堂遺跡、平町遺跡、蓮華遺跡の発掘調査を実施致しました。

今回発掘調査を行った蓮華遺跡周辺では、今までその内容を把握すべく、色々な調査が行われてきました。その結果、中世の玉名を解明するための貴重な資料が発見され、着実に蓄積されてきております。

このたび、再び調査の機会を得たことにより、中世はもとより弥生時代から近世にかけての出土品が新たに発見されたことは、研究の大きな進歩になると考えております。この成果を学術研究の資料としてのみならず、学校教育、生涯学習の場でより多くの人々に活用していただき、埋蔵文化財に対する認識と理解の一助になれば誠に喜びに堪えません。

発掘調査、報告書刊行にあたっては、各方面で多くの方々に御指導、御協力を賜ったことに対して厚くお礼を申し上げます。

平成14年３月29日

玉名市教育委員会

教育長　三　次　昭　也

例　言

1．本書は、都市計画街路築地立願寺線道路改良工事に伴う、玉名市築地地内に所在する今見堂遺跡、平町遺跡、蓮華遺跡の発掘調査報告書である。

2．試掘・確認調査は玉名市教育委員会が行った。発掘調査は今見堂遺跡を玉名市教育委員会が行い、平町遺跡、蓮華遺跡は玉名市教育委員会の指導のもと、大部分を大成エンジニアリング(株)・(有)遺跡整備計画築地蓮華遺跡発掘調査共同企業体および文化財環境整備・人間文化都市研究所共同企業体に委託した。

3．発掘調査は、今見堂遺跡が平成９年11月４日から平成10年１月16日まで、平町遺跡が平成11年11月１日から平成12年１月15日まで、蓮華遺跡が平成12年１月15日から平成13年３月31日までの期間で実施した。

4．今見堂遺跡発掘調査における遺構実測、遺物取上、写真撮影は西田、田中、中尾が行った。平町、蓮華遺跡発掘調査における遺構実測、遺物取上、写真撮影は各共同企業体の担当者が行い、一部を末永が行った。

5．平町遺跡の自然科学分析は、(株)古環境研究所に委託した。

6．整理作業は、玉名市教育委員会において平成13年２月から平成14年３月までの期間で実施した。

7．遺物の実測・トレースは、(有)遺跡整備計画に委託し、一部を末永が行った。

8．遺物の写真撮影は末永が行った。

9．製図、図版作成は末永が行った。

10．方位はすべて、公共座標Ⅱ系に基づく北を指している。

11．本書の執筆は、今見堂遺跡の第Ⅰ章を田中、平町遺跡の第Ⅰ章第１節を西田、それ以外を末永が行い、編集は末永が行った。

12．出土遺物は、玉名市教育委員会で保管している。

本 文 目 次

ご挨拶
例言
本文目次
挿図目次
表目次
図版目次

Ⅰ．今見堂遺跡
第Ⅰ章　調査の概要
第１節　調査に至る経緯…… 2
第２節　調査の組織…… 2
第Ⅱ章　今見堂遺跡の調査
第１節　遺跡の概要…… 5
第２節　試掘・確認調査…… 6
第３節　調査の方法…… 6
第Ⅲ章　遺構と遺物…… 8
第Ⅳ章　まとめ…… 11

Ⅱ．平町遺跡
第Ⅰ章　調査の概要
第１節　調査に至る経過…… 14
第２節　調査の組織…… 16
第Ⅱ章　平町遺跡の調査
第１節　遺跡の概要…… 17
第２節　試掘・確認調査…… 17
第３節　調査の方法と経緯…… 17
第Ⅲ章　遺構と遺物…… 21
第Ⅳ章　まとめ…… 22
付編　玉名市、平町遺跡における自然科学分析

Ⅲ．蓮華遺跡
第Ⅰ章　調査の概要
第１節　調査に至る経緯…… 42
第２節　調査の組織…… 43
第Ⅱ章　蓮華遺跡の調査
第１節　遺跡の概要…… 45
第２節　調査の方法…… 46
第Ⅲ章　弥生時代の遺構と遺物…… 47
第Ⅳ章　古墳時代の遺構と遺物…… 57
第Ⅴ章　中世～近世の遺構と遺物…… 86
第Ⅵ章　まとめ…… 113
報告書抄録

挿　図　目　次

第１図　今見堂遺跡、平町遺跡、蓮華遺跡調査区位置図……3
第２図　今見堂遺跡、平町遺跡、蓮華遺跡周辺遺跡分布図……4
第３図　今見堂遺跡試掘確認調査トレンチ位置図及び調査範囲図……7
第４図　今見堂遺跡遺構配置図……9
第５図　今見堂遺跡遺構実測図（SK01，02，03）……10
第６図　今見堂遺跡遺構実測図（SK04，05）……11
第７図　今見堂遺跡遺物実測図（１～14）……12
第８図　平町、蓮華遺跡試掘確認調査トレンチ位置図……18
第９図　平町遺跡調査範囲図 ……18
第10図　平町遺跡遺構実測図……19・20
第11図　平町遺跡遺物実測図（１～３）……22
第12図　蓮華遺跡調査経緯図……42
第13図　蓮華遺跡調査範囲図 ……44
第14図　蓮華遺跡遺構配置図（弥生時代）……49・50
第15図　住居址実測図（S022，097）……51
第16図　住居址実測図（S100，092，093）……52
第17図　住居址、土坑実測図（S079，058，080，043，094）……53
第18図　蓮華遺跡出土遺物実測図（001～014）……54
第19図　蓮華遺跡出土遺物実測図（015～021）……55
第20図　蓮華遺跡遺構配置図（古墳時代）……59・60
第21図　住居址実測図（S001，002）……62
第22図　住居址実測図（S012）……63
第23図　住居址実測図（S024）……64
第24図　住居址実測図（S017，030）……65
第25図　住居址実測図（S031）……66
第26図　住居址実測図（S035，045）……67
第27図　住居址実測図（S056）……68
第28図　住居址実測図（S054，060）……69
第29図　住居址実測図（S076）……70
第30図　住居址実測図（S099，109，111）……71
第31図　土坑実測図（S019，041，059，105，106）……72
第32図　土坑、溝状遺構実測図（S102，107，110，123，055）……73
第33図　蓮華遺跡出土遺物実測図（022～045）……77
第34図　蓮華遺跡出土遺物実測図（046～054）……78
第35図　蓮華遺跡出土遺物実測図（055～077）……79

第36図　蓮華遺跡出土遺物実測図（078～099）……80
第37図　蓮華遺跡出土遺物実測図（100～117）……81
第38図　蓮華遺跡出土遺物実測図（118～133）……82
第39図　蓮華遺跡出土遺物実測図（134～138）……83
第40図　蓮華遺跡遺構配置図（中世～近世①）……87・88
第41図　蓮華遺跡遺構配置図（中世～近世②）……89・90
第42図　溝状遺構実測図（SD05～08）……92
第43図　道路部分土層断面図 ……93
第44図　掘立柱建物跡実測図（SB01）……94
第45図　土坑実測図（S027，029）……97
第46図　土坑実測図（S013，016，018，054，074，115～119，121）……98
第47図　土坑実測図（S066，108，SK03～06）……99
第48図　土坑実測図（SX01，S122，SK01，02）……100
第49図　溝状遺構実測図（S042，049）……101
第50図　蓮華遺跡出土遺物実測図（139～150）……104
第51図　蓮華遺跡出土遺物実測図（151～172）……105
第52図　蓮華遺跡出土遺物実測図（173～200）……106
第53図　蓮華遺跡出土遺物実測図（201～216）……107
第54図　蓮華遺跡出土遺物実測図（217～224）……108
第55図　蓮華遺跡出土遺物実測図（225～232）……109
第56図　蓮華遺跡出土遺物実測図（233～236）……110

表　目　次

第１表　今見堂遺跡、平町遺跡、蓮華遺跡周辺遺跡一覧……5
第２表　蓮華遺跡出土遺物観察表（弥生時代）……56
第３表　蓮華遺跡出土遺物観察表（古墳時代）……84
第４表　蓮華遺跡出土遺物観察表（中世～近世）……111

図 版 目 次

図版１　今見堂遺跡全体、今見堂遺跡調査区東側、SK01
図版２　SK01土層堆積状況、SK05完掘状況、SK05遺物出土状況
図版３　今見堂遺跡出土遺物（１～１）
図版４　平町遺跡調査区全体、平町遺跡遺構全体
図版５　畝状遺構（西側）、畝状遺構（東側）、畝状遺構（中央部）
図版６　畝状遺構（西側）、調査区西側、調査風景
図版７　調査区西側全体（西から）、調査区東側
図版８　調査区西側全体（南から）、調査区全体
図版９　S022完掘状況、S022柱穴遺物出土状況、S100完掘状況
図版10　S092完掘状況、S058完掘状況、S001完掘状況
図版11　S002完掘状況、S012完掘状況、S012柱穴遺物出土状況
図版12　S024完掘状況、S024カマド完掘状況、S024遺物出土状況
図版13　S017完掘状況、S030完掘状況、S030カマド完掘状況
図版14　S031完掘状況、S035完掘状況、S045完掘状況
図版15　S056完掘状況、S054完掘状況、S054カマド完掘状況
図版16　S076完掘状況、S076カマド完掘状況、S109完掘状況
図版17　S111完掘状況、SD05（東から）、調査区西側
図版18　SD05（西から）、道路部分（東から）、SB01完掘状況
図版19　S027完掘状況、S029遺物出土状況、S029完掘状況
図版20　S108遺物出土状況、S108遺物出土状況、S066遺物出土状況
図版21　SK03完掘状況、SK04完掘状況、S042完掘状況
図版22　蓮華遺跡出土遺物（１～７）
図版23　蓮華遺跡出土遺物（９～11）
図版24　蓮華遺跡出土遺物（12，16，18，19，21，23，24，27，29）
図版25　蓮華遺跡出土遺物（33，34，35，43，44，47）
図版26　蓮華遺跡出土遺物（50，51，48，49，53）
図版27　蓮華遺跡出土遺物（62，65，66，67，72，76，78，73）
図版28　蓮華遺跡出土遺物（87，50，90，99，100，102，105，109）
図版29　蓮華遺跡出土遺物（113，114，116，117，118，120，132，135）
図版30　蓮華遺跡出土遺物（139，140，144，143，159，160，161，162，163，164）
図版31　蓮華遺跡出土遺物（173，174，182，185，188，193，194，196）
図版32　蓮華遺跡出土遺物（201，197，198，202，211）
図版33　蓮華遺跡出土遺物（217，218，221，223，222，224，226，236）
図版34　蓮華遺跡出土遺物（83，91，232）

Ⅰ．今見堂遺跡

Ⅰ．今見堂遺跡

第Ⅰ章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

都市計画街路築地立願寺線建設に伴い平成９年４月に玉名市役所都市計画課より試掘・確認調査依頼を受け、平成９年９月に確認調査を実施した。調査の結果、部分的に発掘調査が必要であることがわかった。平成９年９月に玉名市役所都市計画課より調査委託を受け、平成９年11月４日から平成10年１月16日にかけて発掘調査を行った。

第２節　調査の組織

事業主体：玉名市役所都市計画課

調査主体：玉名市教育委員会

調査責任者：教育長　三次昭也

調査総括：社会教育課長　隈部了裕

調査担当：審議員兼文化係長　西田道芒　　主任　内田秀昭　　技師　田中康雄

　　嘱託　中尾健照

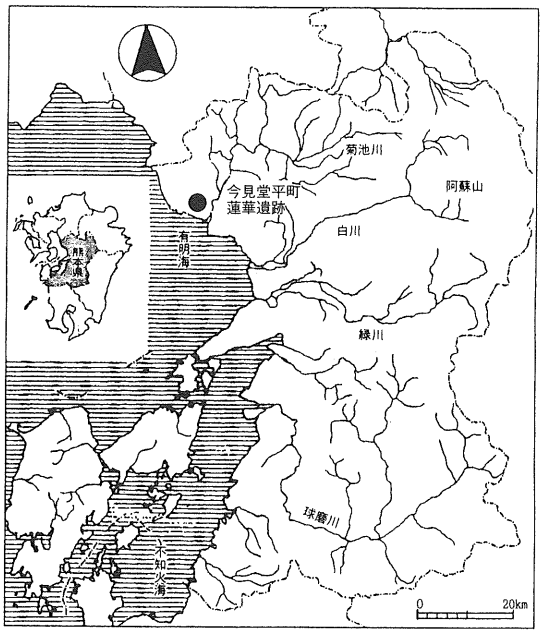
調査庶務：主事　大石貴子

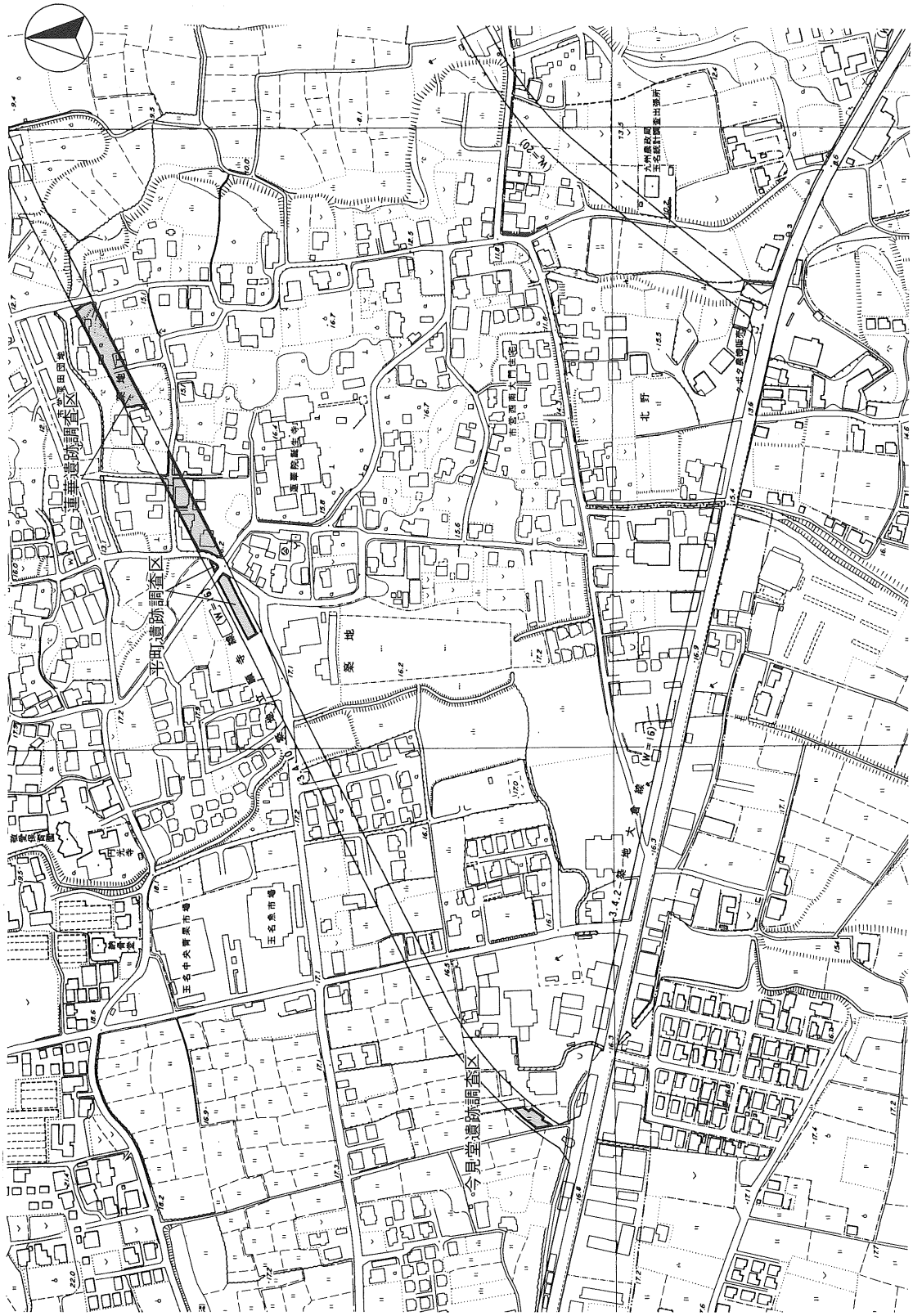
現場作業員

島村良子、高田いつえ、高田とみこ、高田みさお、田添良子、築地英之、築森カス子、早野正成

前田千代子、山瀬絹子（敬称略）

調査協力者　共和建設株式会社





第１図　今見堂遺跡、平町遺跡、蓮華遺跡調査区位置図（S=1/5,000）

第２図　今見堂遺跡、平町遺跡、蓮華遺跡周辺遺跡分布図　(S=1/10,000)

第Ⅱ章　今見堂遺跡の調査

第１節　遺跡の概要

今見堂遺跡の所在する玉名市は、熊本県北部の菊池川下流域を中心とした都市で、面積約90.3㎡、人口４万６千人を有する。市街地の東側を菊池川が大きく蛇行しながら流れ、途中繁根木川や木葉川が合流し、有明海に注ぐ。

市の北側に位置する小代山は、風化の進んだ花崗岩山塊で、南側にかけて緩やかな丘陵地帯が広がっており、花崗岩風化土のため斜面の崩落が認められる。市街地は、低い洪積台地が侵食を受けた低く緩やかな丘陵に形成され、低地は水田になっている。

今見堂遺跡の周辺に所在する遺跡を中心に、各時代の概要をみてみると、縄文時代は主に台地端部に貝塚が営まれる。玉名市中心部にも、繁根木貝塚、保田木貝塚などがみられる。縄文時代晩期から弥生時代早期にかけては、玉名平野中央部に位置する柳町遺跡から突帯文土器が出土している。

第１表　今見堂遺跡、平町遺跡、蓮華遺跡周辺遺跡一覧

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
055	四十九	築地　四十九	縄文～中世	包蔵地		須恵蔵骨器１個出土
056	四十九古墳	築地　四十九	古墳	古墳		現在地点表示主体部不明
057	西の山古墳群	築地　西の山	古墳	古墳		１号竪穴石室か、２号横穴巨石墳木棺埋葬
058	西の山	築地　西の山	古墳	包蔵地		数個、内１個蓋付須恵器完形
063	五郎丸	山田　下馬場	弥生	包蔵地		微高台地、他の弥生土器も伴出
073	俊教坊跡	山田　上馬場	中世	寺社		宝篋印塔・三重塔・宝塔
083	山田中島	山田　中島	弥生	包蔵地		合口壷棺１基出土
087	糠峯	山田　糠峯	中世	包蔵地		独立小山南斜面開墾で出土、糸切り皿多量
088	高頭	山田　高頭	古墳・古代	包蔵地		台地北崖面、完形品須恵器多数出土
150	今見堂	築地　今見堂	古代・中世	包蔵地		土葬人骨１、五輪塔片、宋銭、青磁、土師器皿
151	平町	築地　平町	古代・中世	包蔵地		土師器・須恵器片分布
152	小路	築地（通称小路）	近世	包蔵地		寛永通宝数400個出土
153	浄光寺南大門跡	築地　南大門	中世	寺社		寺跡より南約300m三巴布目瓦多量出土
154	南大門地下式横穴	築地　南大門	古墳	古墳		
155	浄光寺蓮華院跡	築地　南大門	中世	寺社	市	仏具・仏像等出土、現在新寺建つ。出土品は市指定
156	浄光寺蓮華院跡関白塔	築地　南大門	中世	石造物		大五輪塔２基並ぶ
157	妙性尼寺跡	築地　南大門	中世	寺社		墓地のみ残る
158	関白屋敷跡	築地　南大門	中世	包蔵地		
159	南大門窯跡	築地　南大門	古代・中世	生産		南大門付近70cm地下炉床あり
160	南大門	築地　南大門	古代	埋葬		付近一帯弥生後晩期土器包含
161	浄光寺蓮華院境内	築地　南大門	中世	包蔵地		本堂地下約1.5m住居跡、弥生後期土器、蓮華遺跡
162	東南大門	築地　南大門	弥生～中世	包蔵地		弥生後期，土師器多量出土。
163	古閑	築地　古閑	弥生～中世	包蔵地		合口甕９基出土、弥生土器散布、鉄器・弥生甕棺
164	築地東	築地　東	弥生	包蔵地		石蓋土抗
167	八段	築地　八段	古墳	包蔵地		土師器・須恵器少量
170	狐ん路	築地　前畑	縄文～中世	包蔵地		平畑遺跡と一連
171	築地市場	築地　市場	弥生	包蔵地		弥生土器多数出土
172	高岡城跡・高岡古墳	山田　高頭	古墳～中世	包蔵地		墓（お姫さん、高岡城主の女）、馬頭骨・鉱滓。
174	高岡原	山田　高岡原	弥生・古墳	包蔵地		土師器・須恵器・弥生土器片散布
178	玉名高校々庭	中　楢林	弥生・古墳	包蔵地		弥生土器・土師器包含、石斧も出土
181	田島	中　田島	古墳	包蔵地		瓦器３脚・碗・土師器片・開元通宝・布目瓦出土
182	春出	中　陣内	古墳	包蔵地		須恵器・土師器・弥生土器
199	築地那木野	築地　那木野	古墳	包蔵地		須恵器・土師器類を包含する
410	馬場遺跡	中	中世	包蔵地		
411	ホカンヤカタ	中	中世	包蔵地		
487	玉名平野条里跡		古代・中世	生産		
488	玉名平野条里跡	古代・中世	生産			

弥生時代は、玉名市内の台地上では、甕棺墓が多くみられる。今見堂遺跡から東へ約800mの地点に位置する東南大門遺跡からは、甕棺墓40基以上が出土した。古墳時代前期の土器も多く出土した。さらに東の、境川をはさんだ丘陵上に位置する高岡原遺跡では、弥生時代後期の集落が確認された。後述する蓮華遺跡周辺でも、弥生時代後期の集落が存在する。

古墳時代には、菊池川下流域では前方後円墳の山下古墳、院塚古墳などが築かれ、中期から後期にかけては装飾古墳・横穴が多く分布する。集落については、柳町遺跡で古墳時代前期の集落が調査された。

古代には、立願寺の丘陵上においては玉名郡司の氏寺と推定される立願寺廃寺、谷を挟んだ東側の丘陵には玉名郡倉、郡家と水駅を直線的に連結させる、両端に側溝を有し、唐尺12尺の郡衙道が調査により確認されている。また南出の現JR玉名駅周辺部では、大湊遺跡（水駅）が想定されている。立願寺廃寺では、現在遺跡の中央に市道が整備され、周辺は宅地化しつつあり、市道建設に伴う調査や専用住宅に伴う確認調査など、小規模な調査例が増えている。

中世には市域の台地端部、河川周辺部等の各地に城砦が築かれ、天正戦乱を機に加藤氏の治世に入る。その後当地では河川の利用が古くから盛んであり、高瀬には海外貿易等に利用された高瀬河港が菊池川に面し造成されていた。河川改修後は藩営の城北米の集散場となり、西南戦争で廃絶、現在は破棄されここに至っている。

玉名市西部の、今見堂遺跡や蓮華遺跡が位置する低丘陵は五輪塔などが点在し、中世の遺跡が多い。今見堂遺跡周辺は、かつては壊れた五輪塔があったとされるが、国道208号の建設時に大きく地形の改変を受けており、その際の土取り場から五輪塔の破片、人骨、古銭等が出土している。現在は水田になっており、店舗建設などの開発が進んでいる地域でもある。

参考文献

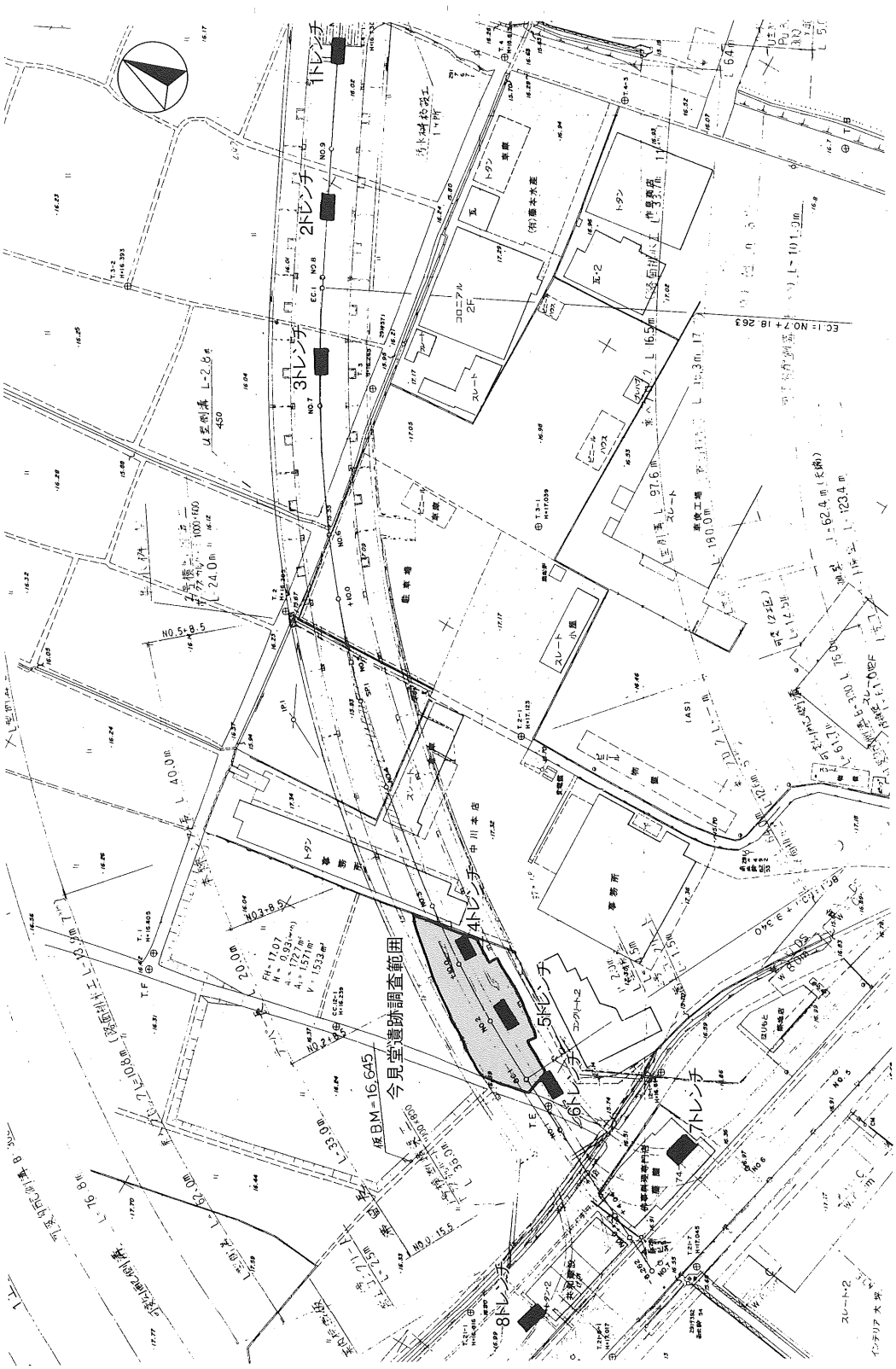
『玉名市史　資料編１　絵図･地図』　玉名市史編纂委員会　1992
田添夏喜　「今見堂遺跡」文化財めぐり（217）　広報たまな　第510号　1988
坂田邦洋　『玉名郡衙』　玉名市史資料集成第12集　玉名市秘書企画課　1994
高谷和生　『柳町遺跡Ⅰ』　熊本県文化財報告第200集　熊本県教育委員会　2001

第２節　試掘・確認調査

平成９年９月に、計画道路内において試掘・確認調査を行った。今回工事される範囲にトレンチを８ヶ所設定し、重機により掘り下げて埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、２ヶ所のトレンチで埋蔵文化財を確認した。その他のトレンチでは埋蔵文化財は確認されなかった。

第３節　調査の方法

調査では、Ⅱ層までを重機により掘削し、Ⅳ層およびⅤ層上面で遺構検出を行った。調査区の実測は平板で１／100スケールで行い、遺構の実測は１／20スケールで行った。



第３図　今見堂遺跡試掘確認調査トレンチ位置図及び調査範囲図

0　20m
(S=1/1000)

第Ⅲ章　遺構と遺物

遺構

SK01（第５図）

調査区南側にてⅤ層上面で検出した。平面形は不整形を呈し、東側は調査区外に延びる。テラス状に段掘りしてあり、起伏がある。遺物は土器片が全体的に出土した。

SK02（第５図）

調査区南東側にてⅤ層上面で検出した。平面形はほぼ円形を呈するとみられ、南北2.1m、東西1.8m以上、検出面からの深さ1.0mを測る。遺物は土器片が出土した。

SK03（第５図）

調査区南東側にてⅤ層上面で検出した。平面形はほぼ円形を呈するとみられ、南北2.1m、東西1.8m以上、検出面からの深さ0.9mを測る。SK02とほぼ同じような遺構で、遺物は土器片が出土した。

SK04（第６図）

調査区北西側にてⅤ層上面で検出した。平面形はいびつな円形を呈し、南北1.0m、東西1.1m、検出面からの深さ28cmを測る。

SK05（第６図）

調査区北西側にてⅤ層上面で検出した。平面形はいびつな円形を呈し、北西側は調査区外に延びる。南北1.0m、東西1.1m、検出面からの深さ28cmを測る。東側はテラス状に段掘りされている。覆土の状況は、上層はレンズ状に堆積し、下層はほぼ１層である。

遺物

SK01

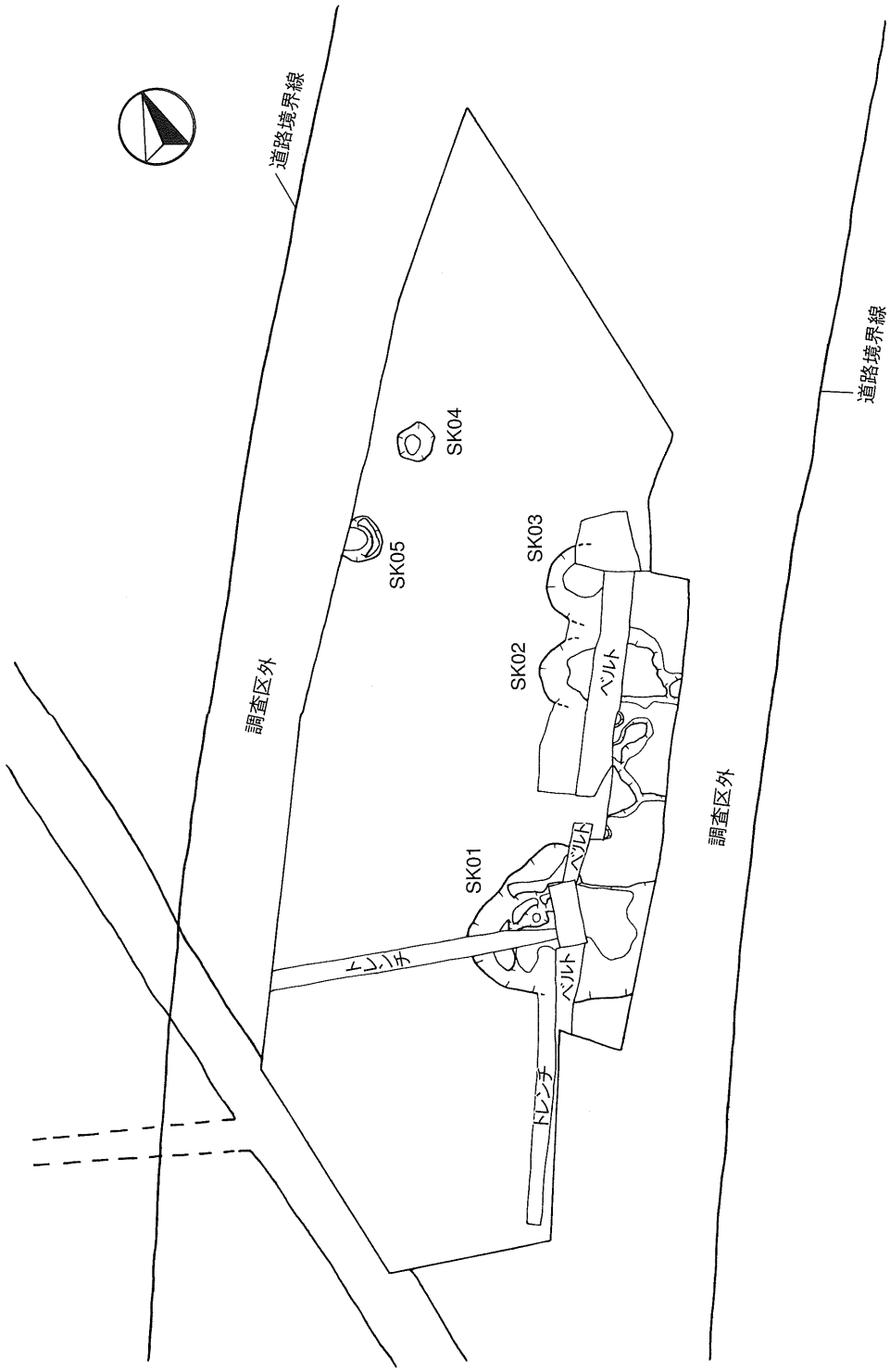
１、２は壺の底部。残存器高は１が14.2cm、２が4.7cmを測る。両方とも平底ぎみの丸底を呈す。器面の調整は、内外面ともハケ目調整される。１はハケ目後、ナデ調整される。

SK02

３～７は甕の脚台。３は脚台裾部が欠損し、残存器高4.8cmを測る。４は残存器高6.0cm、底径10.2cmを測る。脚台の裾部はやや外反して開く。５は残存器高5.8cm、底径11.2cmを測る。脚台の裾部はやや外反して開く。６は残存器高6.0cm、底径12.4cmを測る。脚台の裾部は直線的に開き、端部が窪む。脚台内面にわずかにハケ目が残る。７は残存器高5.2cm、底径13.2cmを測る。脚台の裾部は直線的に開く。８は壺の口縁部。復元口径15.0cm、残存器高6.9cmを測る。外面の調整はハケ目で、内面の調整は単位の大きい横方向のハケ目である。９は壺の底部。残存器高6.5cmを測る。平底ぎみの丸底を呈し、内面にわずかにハケ目調整のあとが残る。10は高坏の坏部。復元口径22.9cm、残存器高6.5cmを測る。器面が磨耗しているため、調整不明。11は台付の鉢の坏部。復元口径14.4cm、残存器高6.7cmを測る。

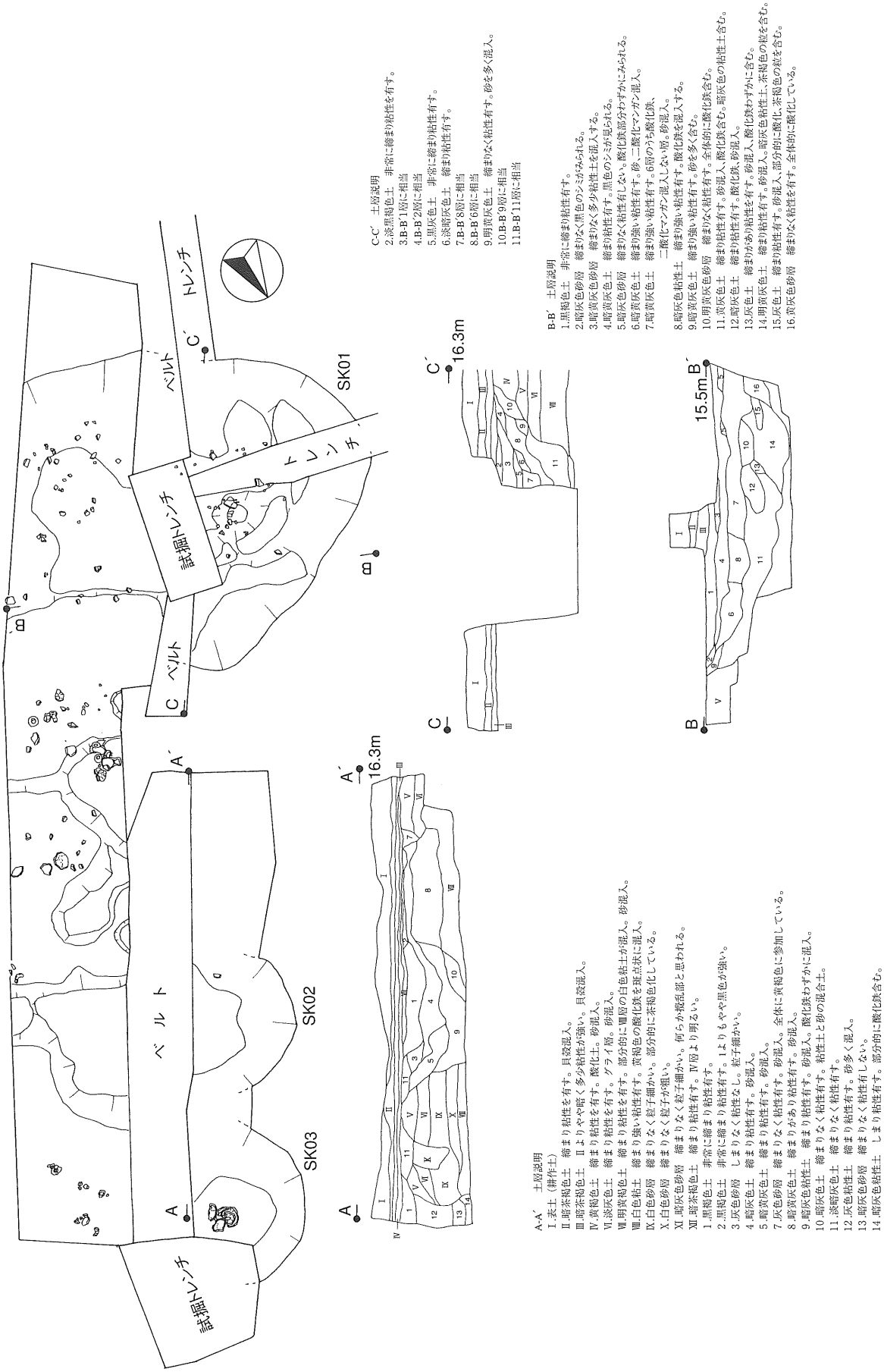
SK03

12は甕または台付鉢の底部と思われる。残存器高3.2cmを測る。外面に指による調整痕を残す。13は甕の口縁部。復元口径19.6cm、残存器高7.6cmを測る。

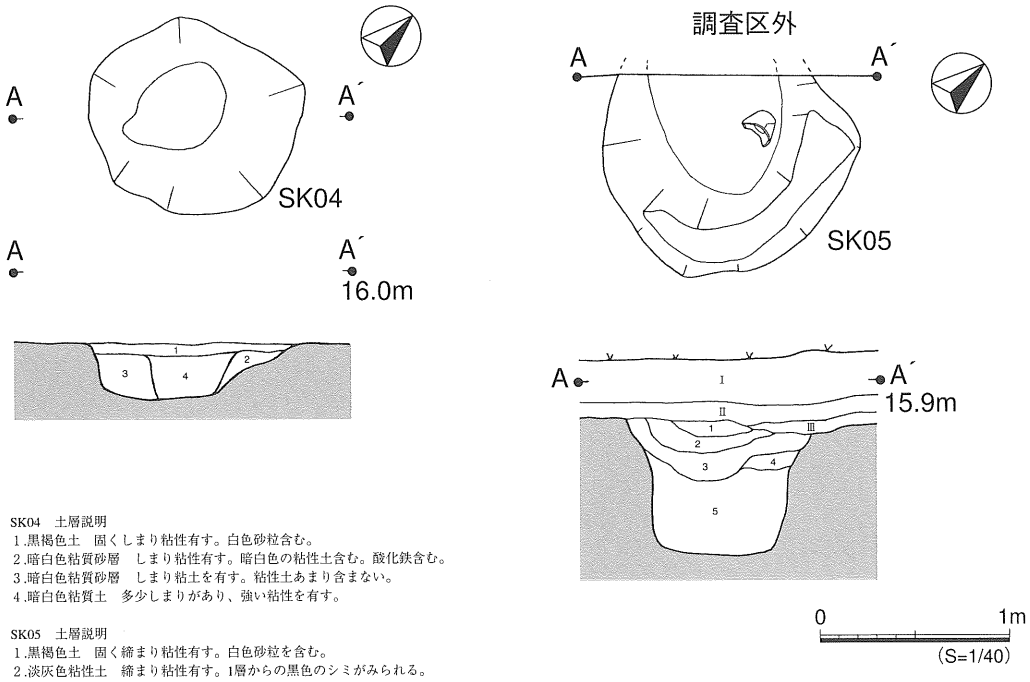


0　10m
(S=1/200)

第４図　今見堂遺跡遺構配置図



第５図　今見堂遺跡遺構実測図(SK01,02,03)



SK04　土層説明
1.黒褐色土　固くしまり粘性有す。白色砂粒含む。
2.暗白色粘質砂層　しまり粘性有す。暗白色の粘性土含む。酸化鉄含む。
3.暗白色粘質砂層　しまり粘土を有す。粘性土あまり含まない。
4.暗白色粘質土　多少しまりがあり、強い粘性を有す。

SK05　土層説明
1.黒褐色土　固く締まり粘性有す。白色砂粒を含む。
2.淡灰色粘性土　締まり粘性有す。1層からの黒色のシミがみられる。
3.暗黄灰色土　締まり粘性有す。砂が多少混入する。
4.暗灰色土　締まり粘性有す。砂が混入。
5.暗灰色土　締まり粘性有す。砂を多く混入する。全体的に酸化している。

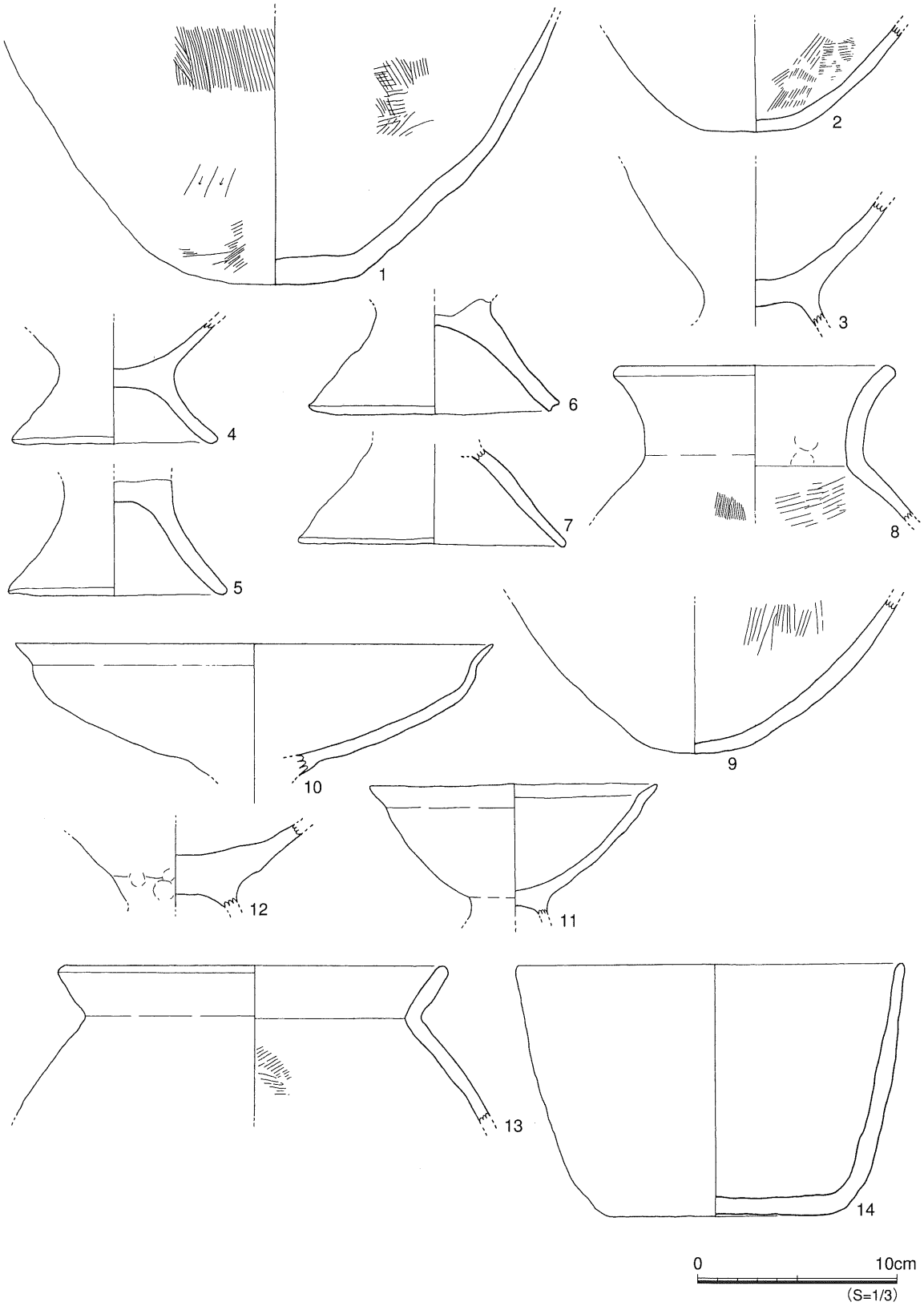
第６図　今見堂遺跡遺構実測図(SK04,05)

SK05　14は鉢型の土器で、復元口径19.4cm、器高11.0cmを測る。器面の調整は磨耗のため不明。

第Ⅳ章　まとめ

今回の調査で検出された遺構は、土坑が５基であった。遺物は弥生時代後期の遺物で、甕、壺、高坏などを検出した。遺構は主に調査区東側に集中して検出したため、さらに東側に広がっていると考えられる。付近に弥生時代後期の住居の存在が指摘できる。

調査範囲では中世の遺構および遺物は検出されなかったため、周辺も含め大きく地形の改変を受け、中世の遺構は消滅したと考えられるが、弥生時代の遺構が確認されたことは今回の調査の成果であった。



第７図　今見堂遺跡遺物実測図（１～14）

Ⅱ．平町遺跡

第Ⅰ章　調査の概要

第１節　平町遺跡発掘調査に至る経過

平成11年５月、玉名市教育員会（以下、「市教委」という。）は、玉名市建設部交通開発課から築地立願寺線建設工事に関わる埋蔵文化財（蓮華遺跡）発掘調査の業務委託を受けた。当時の発掘調査担当部署の組織は、次のとおり。なお、玉名市の人口は約46,000人である。

担当部署　玉名市教育委員会社会教育課文化係

係長（専門は埋文）１人、文化財及び庶務担当１人、文化財及び文化振興担当１人

埋蔵文化財担当２人、合計５人

また当時、文化係が行っていた調査は次のとおり。

（１）一般国道208号玉名バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査

（２）史跡永安寺東・西古墳の整備工事に先立つ発掘調査

（３）民間開発に伴う事前の試掘・確認調査

このように、発掘の現場作業は目白押しで実質的に調査に参入できる状況ではなかった。しかも、築地立願寺線の認可期間は平成12年度までとなっており、工期の延長は考えられなかった。

これにより，対応に苦慮した市教育委員会は、平成11年８月９日、熊本県教育委員会文化課に実情を話し、対処法について相談した。県文化課は、玉名市の人口、教育委員会組織、発掘体制等を斟酌しながら、次のように指導された。

玉名市の発掘体制は人口規模から見てほぼ充実していると言える。また、現状では新たな調査員の増加は無理でもあり近隣市町からの発掘調査員の支援も不可能である。今後も更なる組織充実を指向してもらいたいが、緊急かつ短期的な事でもあり、下記条件で民間調査機関の導入を考えても良い。（＊平成13年12月、係長１人、調査員３人、調査嘱託２人、ほか２人計８人に増員）

１　玉名市が自らの責任で民間調査機関の選択、契約等を行うこと。

２　玉名市教育委員会が主体かつ全責任を負って調査を行うこと。

ただし、今回はあくまでも実験であり、恒常的な調査体制ではないことを承知しておくこと。

その後も熊本県文化課からは、他県の契約書の仕様、契約本文等の資料提供、民間調査機関に関する資料の提供等、多くの配慮をいただいた。本文を借りて感謝申し上げる。

これらの指導に基づき市教委は、平成11年９月22日、「発掘の組織及び管理監督上の原則」を下記のようとした。

１　発掘調査は、原則として市教委の直営とする。

２　埋蔵文化財発掘調査員の人的配置上、市教委直営が不可能な場合のみ、請負に付す。

３　請負に付す場合の分掌は下記のとおりとする。

（１）管理監督部門は、市教委の専権とする。

（２）発掘全体に関わる部門は、すべて市教委が指揮する。

（３）遺跡の性格・全体像等、遺跡の本質的な部分に関わる分析その他の調査は、市教委が行う。

（４）この組織の大要は次のとおり。（以下、略）

同日、「玉名市の埋蔵文化財発掘調査設計書の設計理念」を策定し、これに基づき、発掘費用の積算を行った。この積算は、建設省及び熊本県土木部の単価表・歩掛の構造を参考に、発掘の経験値を基に発掘単価（代価）表及び発掘歩掛を作成して積み上げた。また、熊本県内にこれらを請け負得る力量のある民間調査機関が育っていない事を考慮し、中央の調査機関と県内の民間調査支援機関とが組み合わさって調査する共同企業体に発注することにした。これを特定埋蔵文化財発掘調査共同企業体（略称、「特定共同企業体」）と呼称することにした。

平成11年９月30日、特定共同企業体説明会を開催し、10月18日現場説明会（３特定共同企業体の参加)、10月27日を見積書の提出期限とした。設計書の質疑・回答はすべてファックスで行うものとし、全企業体に同一回答書を送信した。

この結果、大成エンジニアリング株式会社・有限会社遺跡整備計画築地蓮華遺跡発掘調査企業体が受注した（随意契約)。

この間作成した資料等は次のとおり（前記している文書を含む。)。

発掘の組織及び管理上の原則
玉名市埋蔵文化財発掘調査企業体運営基準
特定埋蔵文化財発掘調査企業体協定書（参考案）
玉名市埋蔵文化財発掘技術者資格基準及び組織標準
玉名市埋蔵文化財発掘調査委託業務参加資格審査申請書提出要綱
玉名市埋蔵文化財発掘調査設計書の設計理念について
玉名市埋蔵文化財発掘調査歩掛
玉名市埋蔵文化財発掘調査単価表
平成11年度埋蔵文化財発掘調査業務委託特記仕様書
埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書（案）

上記に基づき発掘は、市教委と企業体との共同作業で実施した。市職員はほぼ連日現場に立ち、週一回の現場協議を欠かさなかった。企業間の協力体制は極めて良好であり市との協調体制も良好であった。民間調査機関（平成11年度企業体に限る。）委託の利点等は以下のとおり。

企業体発注の利点

1）　安全上の対策が十分に配慮された（土木施工管理士の配置による安全教育、安全対策の充実)。
2）　市と企業体との技術交流・交換ができた（各調査員の専門分野の違いによる交流)。
3）　庁内の事務的作業が軽減された。
4）　市の調査員体制＝１発掘２調査員のところを１発掘１調査員でまかなう事が出来た。

発注の反省点

1）　細かい歩掛を作成したことにより発掘実績の確認検査が煩雑となった。
2）　土木施工管理士の歩掛が少なめだったため、安全配慮が企業体努力に負う面が大きくなった。
3）　市調査員が指示を与える事に没頭し、自身の発掘技術向上に役立てることが出来なかった。

なお、蓮華遺跡は、当初、調査地全体を「蓮華遺跡」と称していたが、発掘終了後遺跡の性格から平町遺跡と蓮華遺跡に分割し、前者を今次調査の遺跡名称とした（第１図参照)。

第２節　調査の組織

調 査 主 体：玉名市教育委員会
調査責任者：教育長　三次昭也　　教育次長　谷口強
調 査 総 括：社会教育課長　西川待機、牧野和明
　　審議員兼文化係長　西田道芒
調 査 担 当：西田道芒（本調査担当）　　技師　田中康雄（試掘・確認調査担当）
　　技師　末永崇（本調査、整理作業担当）
整理作業員：黒田良子　村上桂子　山本美枝
調査指導・協力者　島津義昭　帆足俊文　荒木巖　　蓮華院誕生寺　（有）廣田組

街路事業担当：玉名市役所交通開発課
交通開発課長　藤嶽年雄
交通開発課審議員　島崎了
街路係長　一安敬二　　主任　平尾通浩
管理係長　北本義博　　主任　小山トミエ　礒野眞吾

大成エンジニアリング(株)･(有)遺跡整備計画築地蓮華遺跡発掘調査共同企業体
総括発掘技師：早川泉（大成エンジニアリング）　主任発掘技師：丸山武水（遺跡整備計画）
発掘技師：堀苑孝志（大成エンジニアリング）　　安全管理技師：望月惇（大成エンジニアリング）
発掘助手：村上孝司　菊川健太（遺跡整備計画）
発掘作業員：城戸季次　楠田一記　坂本謙輔　坂本政治　品川平治　雪野弘行
　　大森ツヤ子　岡田道子　作本吟子　品川タカ子　西川美智子　西嶋ヨシエ
　　平島千代子　前田妙子　前田ミチ　上村トシエ　今村東亜子

第Ⅱ章　平町遺跡の調査

第１節　遺跡の概要

平町遺跡は、小岱山から南に延びる丘陵の南側に位置し、標高は17mほどの地点である。蓮華遺跡の範囲は古くから宅地化が進んでいるが、蓮華遺跡の西側に隣接する平町遺跡周辺は、主に水田が営まれている。この辺りの層は粘土と砂が混ざりあって形成された岱明層と呼ばれる層であり、層中に水を通さない粘土が帯状に堆積する箇所があれば、その上部に水が溜まり、「宙水（ちゅうみず)」と呼ばれる部分を形成する。この「宙水」を利用した井戸がこの周辺には多くみられ、灌漑用水路と併せて農業用水を確保できている。近年は徐々に開発が進み、宅地化されている。

平町遺跡周辺は東側の蓮華遺跡を含め弥生時代～中世までの土器片が多く散布している。今回の調査によって蓮華遺跡の西側の範囲を確定できる可能性も考えられた。

第２節　試掘・確認調査（第８図）

平成11年４月20日から４月26日にかけて、試掘・確認調査を行った。道路建設予定地は蓮華遺跡、古閑遺跡に含まれており、道路敷地内の掘削可能な地点に14ヶ所トレンチを設定し、バックホーで掘り下げて埋蔵文化財の状況を確認した。そのうち６、７、８、９トレンチで埋蔵文化財を確認した。

６トレンチは、蓮華遺跡の西側縁辺部に設定したトレンチで、東西方向に長く掘削した。その結果Ⅰ～Ⅶ層までを確認し、Ⅴ、Ⅵ層で土器片を検出した。さらにⅦ層上面で土坑、溝状遺構を検出した。遺構覆土から土器片が出土した。

７トレンチでは、Ⅰ～Ⅵ層までを確認し、土坑、溝状遺構、ピット等を検出した。

８トレンチでは、Ⅰ～Ⅵ層までを確認した。このうちⅣ、Ⅴ層で弥生時代の遺物を多量に検出した。さらにⅥ層上面で落ち込みを検出した。遺構の可能性がある。

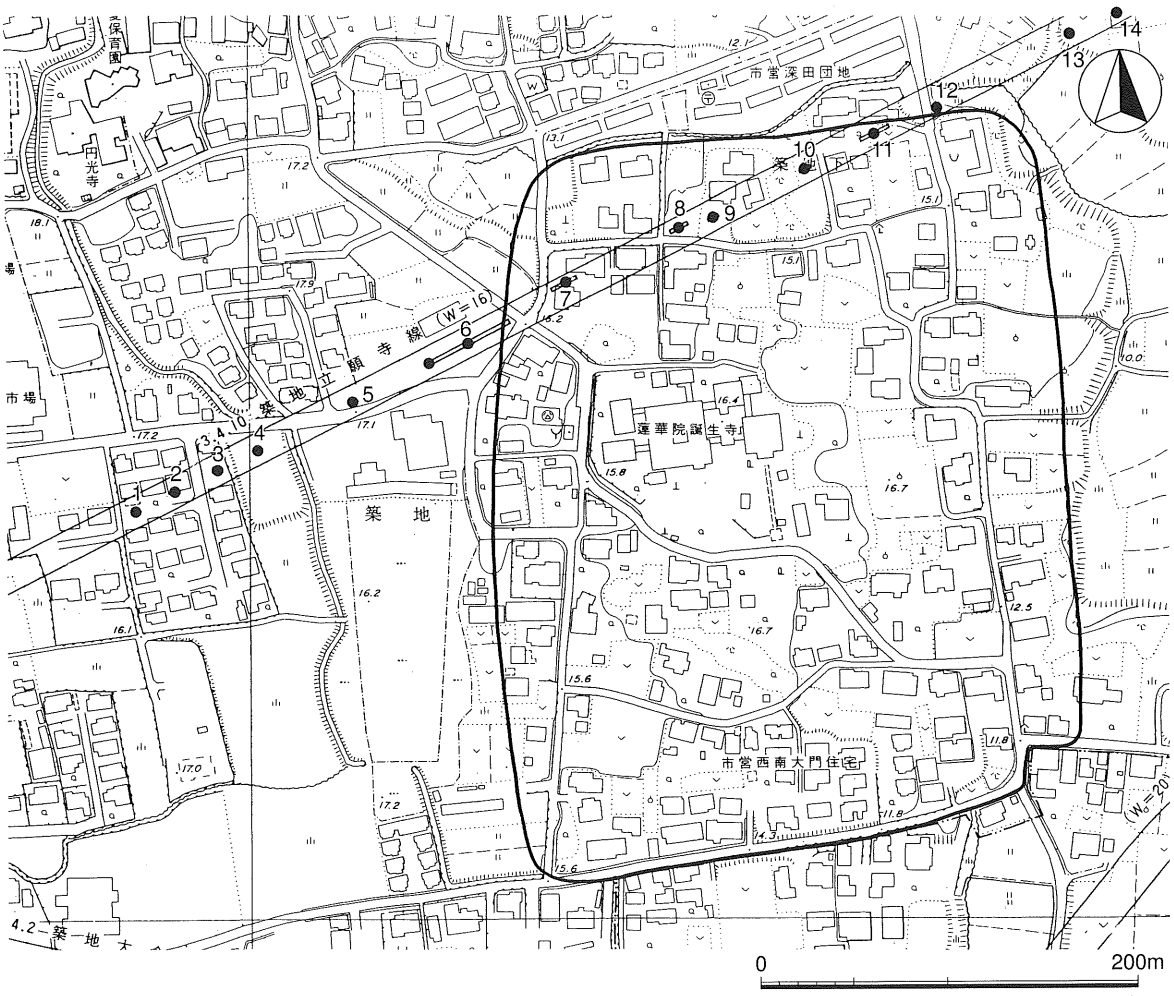
以上の結果から、埋蔵文化財が確認された範囲では、工事に先だって発掘調査が必要と思料される。

第３節　調査の方法と経緯

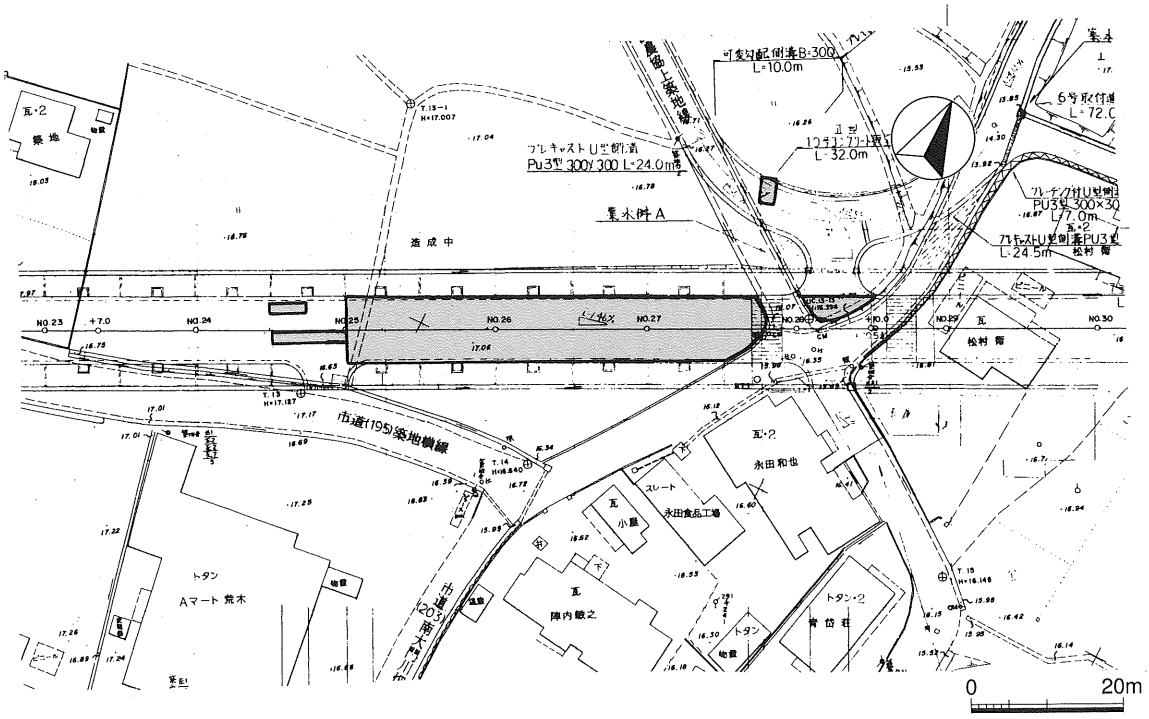
調査範囲は、計画道路の歩道部分は掘削も浅く、遺跡は現状で保存されるため、工事が影響を及ぼす車道部分のみを対象に調査を行った。調査区は、試掘の時点では水田を埋め立てて駐車場として利用されており、ほぼ平坦になっていた。

今回調査した範囲において確認した層位はⅠ層からⅤ層までで、表土剥ぎでは、盛土とⅡ層までを重機により掘削し、その後人力よる掘削作業を行った。調査区は国土座標に基づき10m単位のグリッドを設定した。人力での掘削はグリッドにそって土層観察用のベルトを残して掘り下げを行った。掘り下げ後、遺構検出面および遺構の状況が把握できた時点で一部のベルトは取り外し、必要に応じて土層断面図を作成した。遺跡の実測は、１／100スケールで行い、部分的に１／20スケールでも行っている。

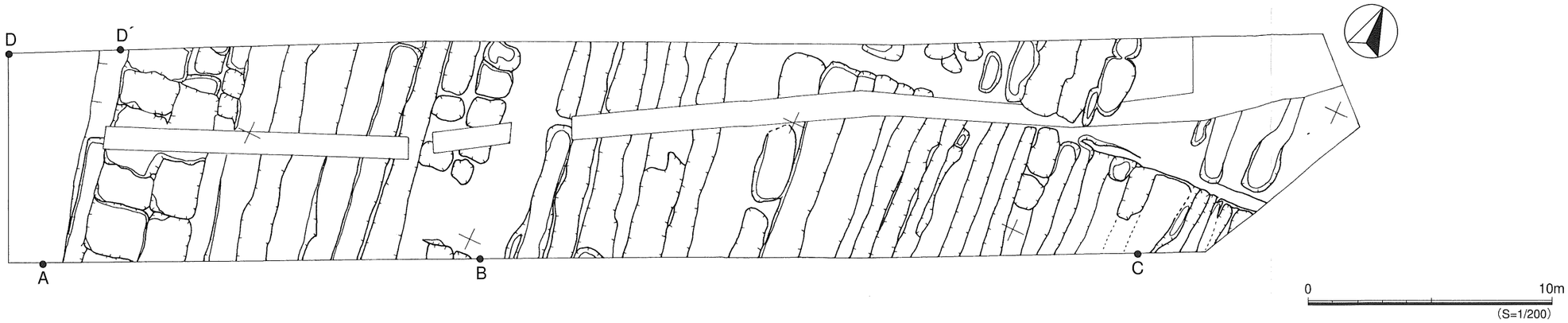
調査時の写真撮影は、35mmのリバーサルおよびモノクロフィルムによる撮影を行った。遺跡の全体などの撮影は一部６×７サイズのリバーサルおよびモノクロフィルムによる撮影を行った。

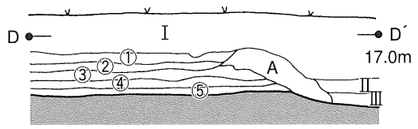


第８図　平町、蓮華遺跡試掘確認調査トレンチ位置図　(S=1/4,000)

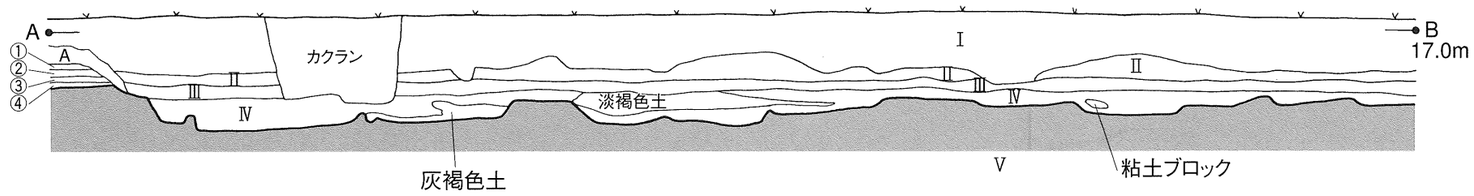


第９図　平町遺跡調査範囲図（アミ部分）　(S=1/1,000)

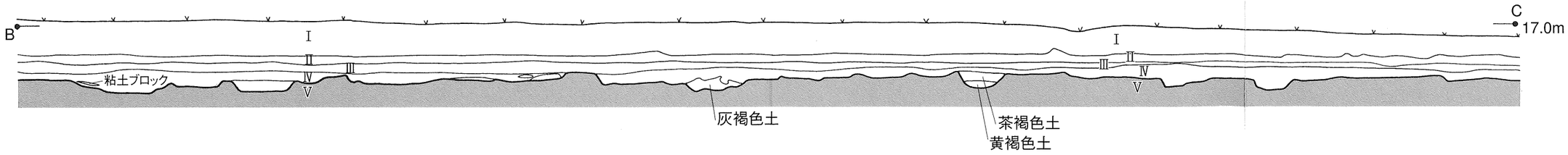


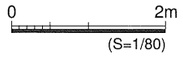


D-D´ 土層説明
① 鉄分を多く含み全体的に赤褐色を帯びる（レンガ色）
② 鉄分を多く含み酸化して黒褐色土粒を形成する。全体的に赤色が強い
③ 茶褐色土　やや締まりやや粘性を有す
④ 黄褐色土　やや締まりやや粘性を有す
⑤ 黄茶褐色土　乾燥時にはやや白っぽく変化
A 褐色土　締まり粘性有す。砂粒含む。旧水田の畦部分と思われる。



A-B-C　土層説明
Ⅰ　水田埋立層
Ⅱ　灰褐色土　やや締まり粘性有す。部分的に酸化鉄を帯状に含む。砂含む。旧水田床土
Ⅲ　褐色土　やや締まり粘性有す。部分的に二酸化マンガン、酸化鉄を帯状に含む。旧水田床土
Ⅳ　褐色土　やや締まり粘性有す。部分的に二酸化マンガン、酸化鉄を含み、明褐色粘土をブロック上に含む。
　　畑作耕作土でありそれぞれの畝によって褐色土と明褐色粘性土が混合する。
Ⅴ　明黄褐色土　　締まり粘性を有す。粘性が強く乾いたら固く締まる。部分的に砂が混入する。無遺物層



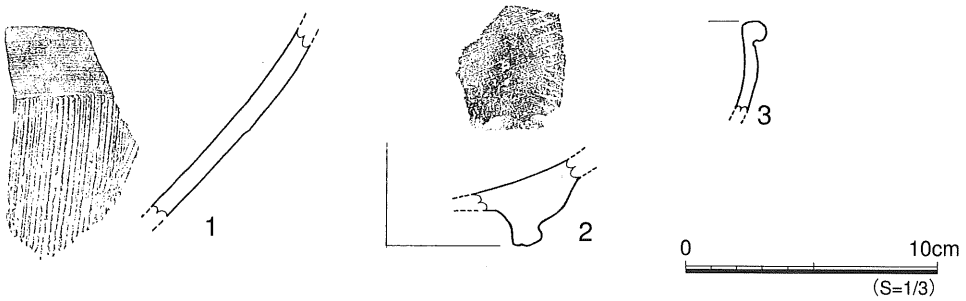


第10図　平町遺跡遺構実測図

路部分の下を工事時に確認することにした。その結果、Ⅴ層まで大きく削平され、遺構は検出できなかった。

遺物

1は摺鉢。口縁部に近い部分。2は摺鉢の底部。残存器高3.8cmを測る。3は陶器。残存器高は3.4cmを測る。



第11図　平町遺跡遺物実測図（1～3）

第Ⅳ章　まとめ

今回の調査では、主に畑作に伴う遺構を検出した。蓮華遺跡に直接関連する遺構は検出されなかった。遺物は主にⅢ層とⅣ層から検出しており、Ⅲ層はビニールなどが含まれているため、現代の水田耕作土である。Ⅳ層からは土師器、青磁、陶磁器などの破片が出土した。中世から近代にかけての土器片で、時期幅があり、畑の耕作に伴う2次的な混入と考えている。したがって当地は近代まで畑作がおこなわれており、その後水田化されたと推察できる。畑作の上限の時期は今回の調査では判断できなかった。調査区西側の下層においては、陶磁器などの近世の遺物が検出されなかったので、層の形成時期は中世まで遡る可能性も指摘できる。

4. 分析結果

（1）分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

イネ、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族A（チガヤ属など）、シバ属、ヌマガヤ属型

〔イネ科－タケ亜科〕

メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（チシマザサ節やチマキザサ節など）、ミヤコザサ節型（おもにクマザサ属ミヤコザサ節）、未分類等

〔イネ科－その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

〔樹木〕

クスノキ科、その他

5. 考察

（1）稲作跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（プラント・オパール）が試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

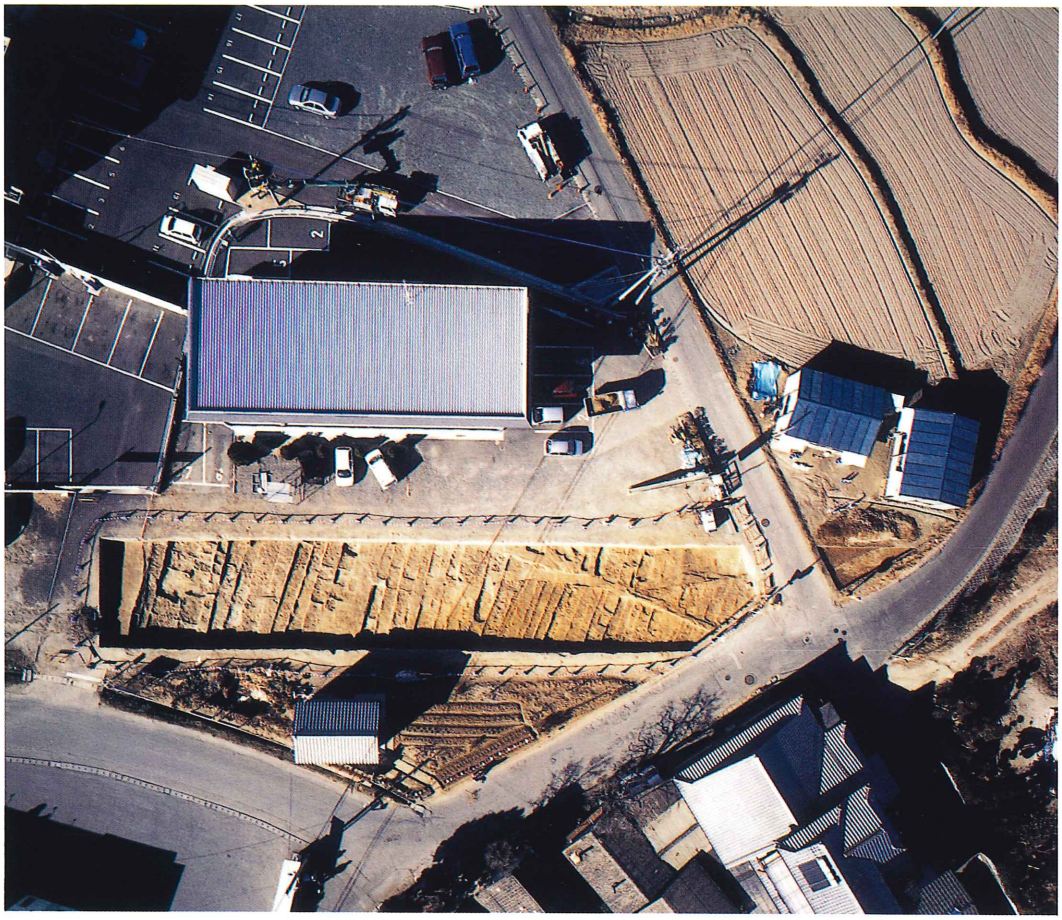
蓮華遺跡から採取された試料1－5、3－1、3－2、3－3、3－4、3－5、3－6の7試料について分析を行った。その結果、3－1、3－2、3－3、3－5、3－6の5試料からイネが検出された。このうち、3－2と3－5では密度が8,600個/gおよび5,100個/gと高い値であり、3－1と3－6でも3,500個/g前後と比較的高い値である。したがって、これらの層準では、稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

（2）イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもオオムギ族（ムギ類が含まれる）、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属型（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがあるが、これらの分類群はいずれの試料からも検出されなかった。

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、未分類等としたものの中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課

Ⅱ　平町遺跡



平町遺跡調査区全体

平町遺跡遺構全体

図版 5

畝状遺構（西側）

畝状遺構（東側）

畝状遺構（中央部）

図版 6

畝状遺構（西側）

調査区（西側）

調査風景

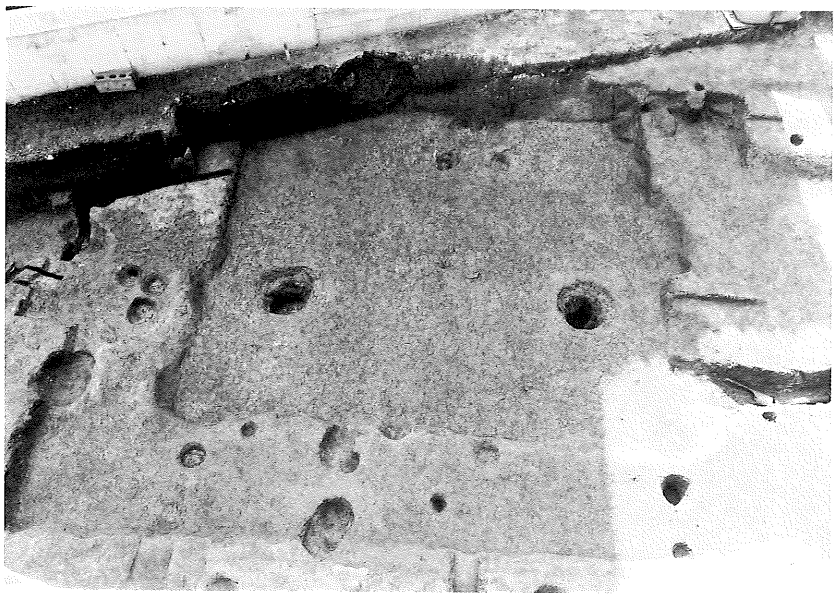
Ⅲ　蓮華遺跡

調査区西側全体（西から）

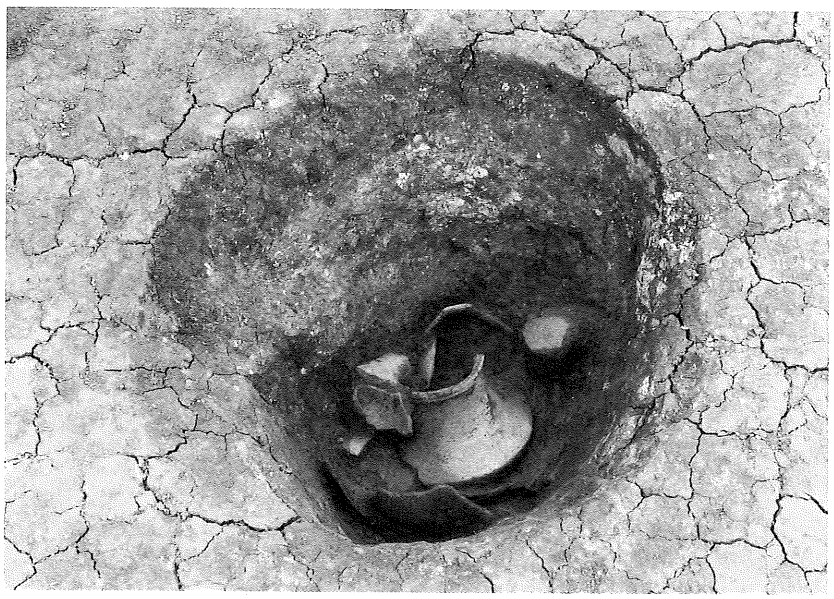
調査区西側

蓮華遺跡調査区東側（西から）

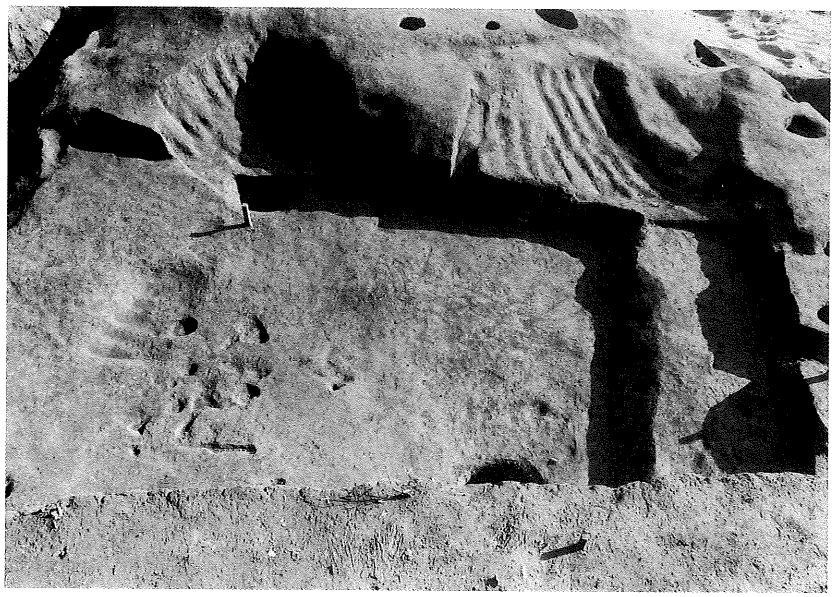
蓮華遺跡調査区全体



S022完掘状況



S022柱穴
遺物出土状況



S100完掘状況

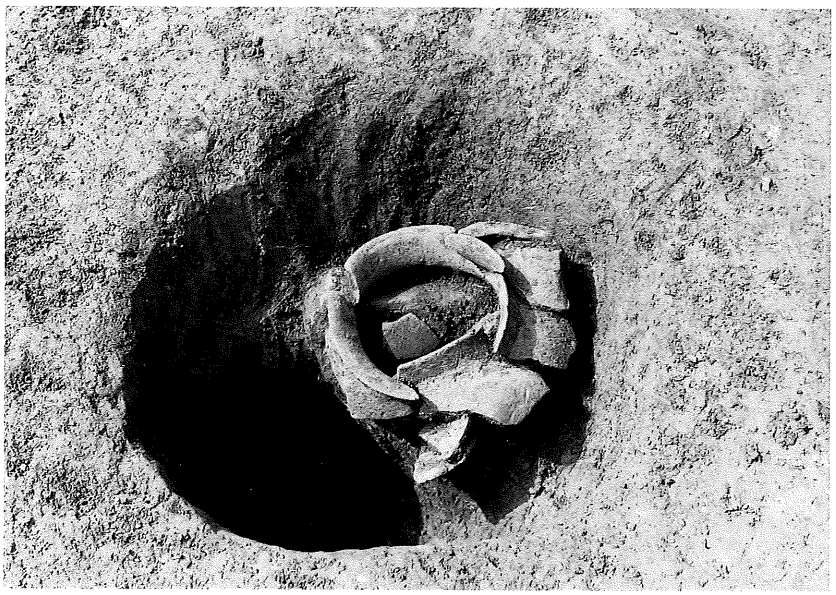
S092完掘状況

S058完掘状況

S001完掘状況

S002完掘状況

S012完掘状況



S012柱穴
遺物出土状況

図版12

S024完掘状況

S024カマド
完掘状況

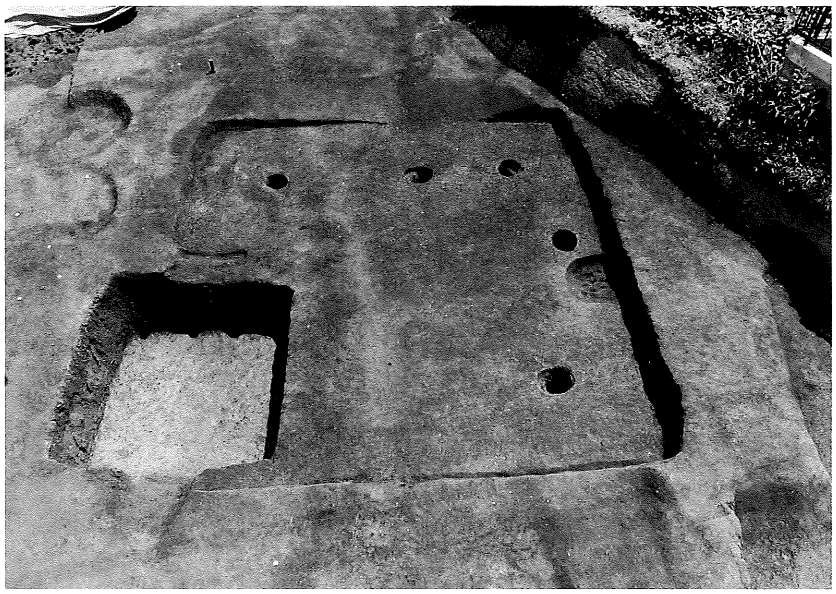
S024遺物出土状況

S017完掘状況

S030完掘状況

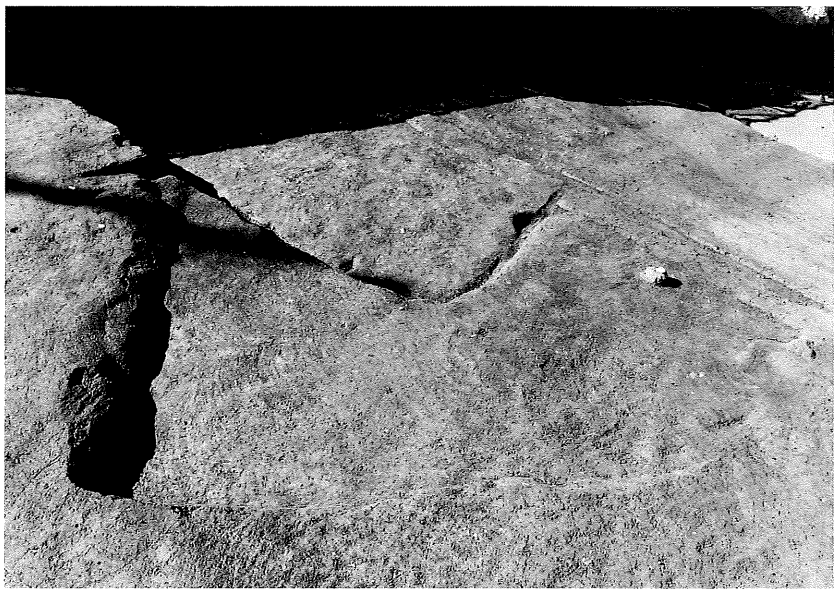
S030カマド完掘状況

図版14



S031完掘状況

S035完掘状況



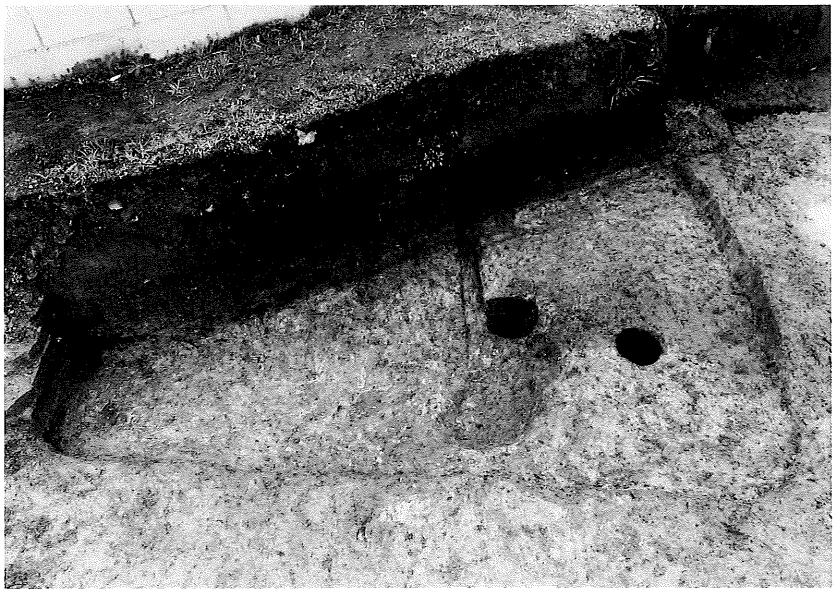
S045完掘状況

S056完掘状況

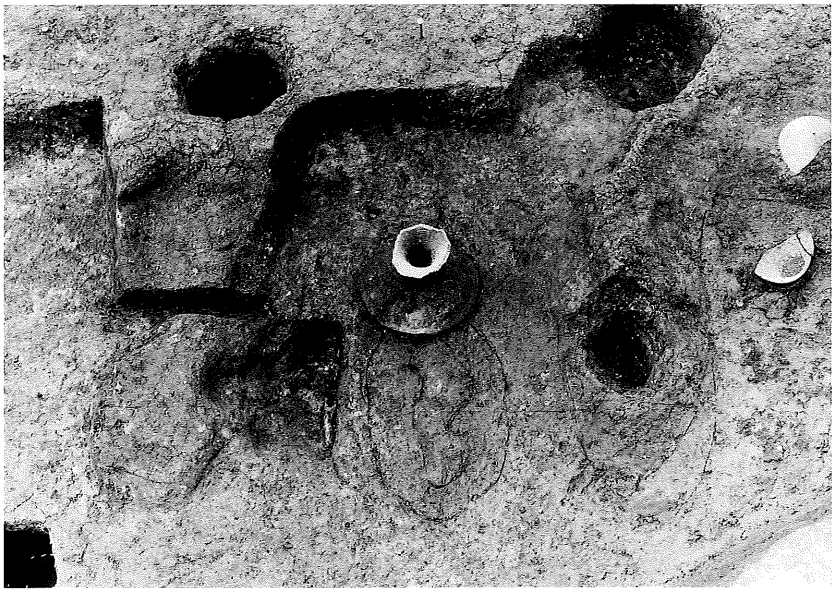
S054完掘状況

S054カマド完掘状況

図版16



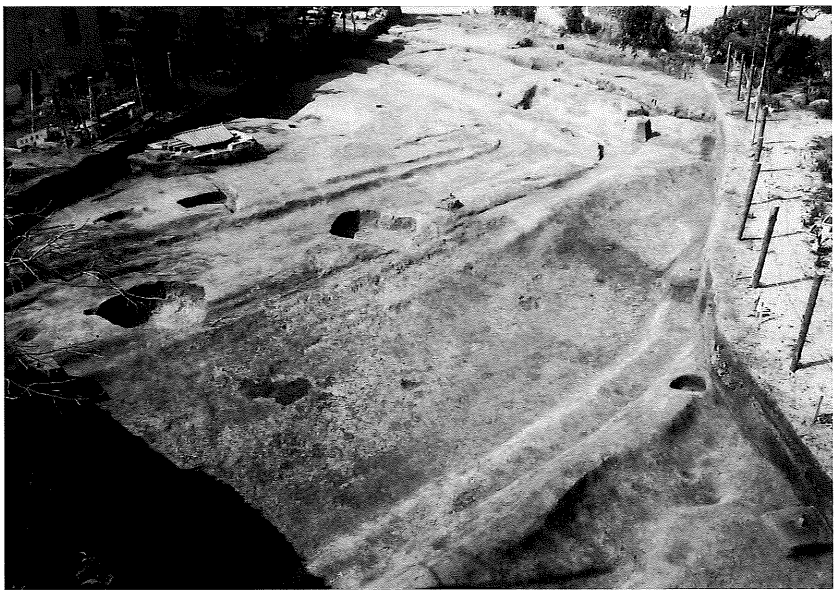
S076完掘状況



S076カマド完掘状況

S109完掘状況

S111完掘状況



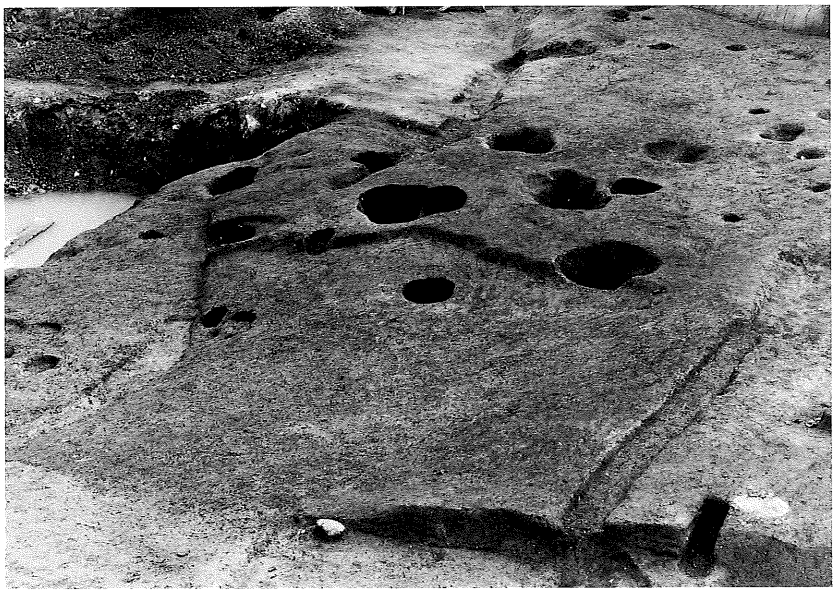
SD05（東から）

調査区西側

図版18

SD05（西から）

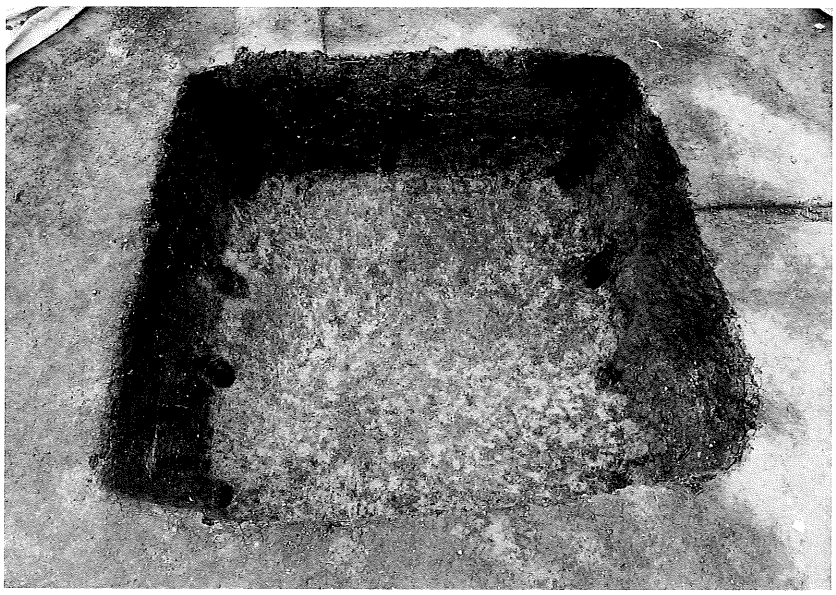
道路部分（東から）



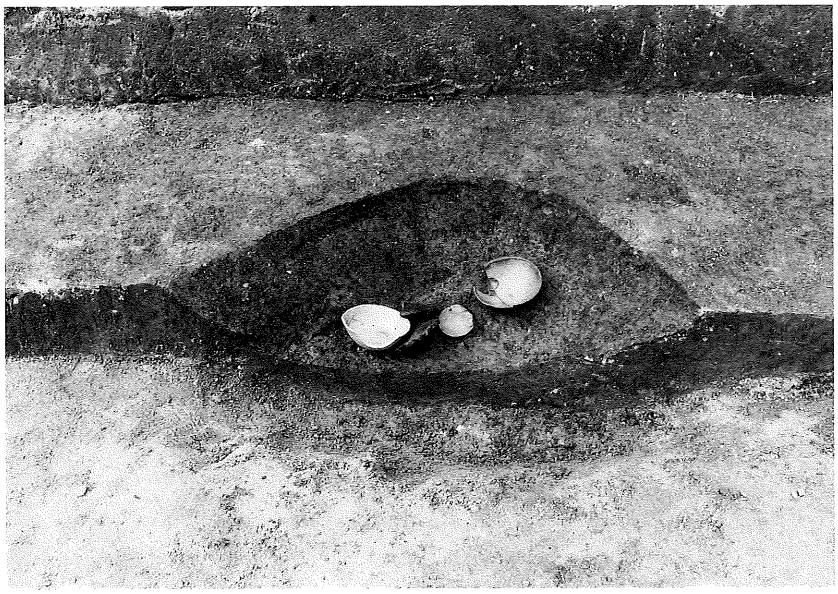
SB01完掘状況

S027完掘状況

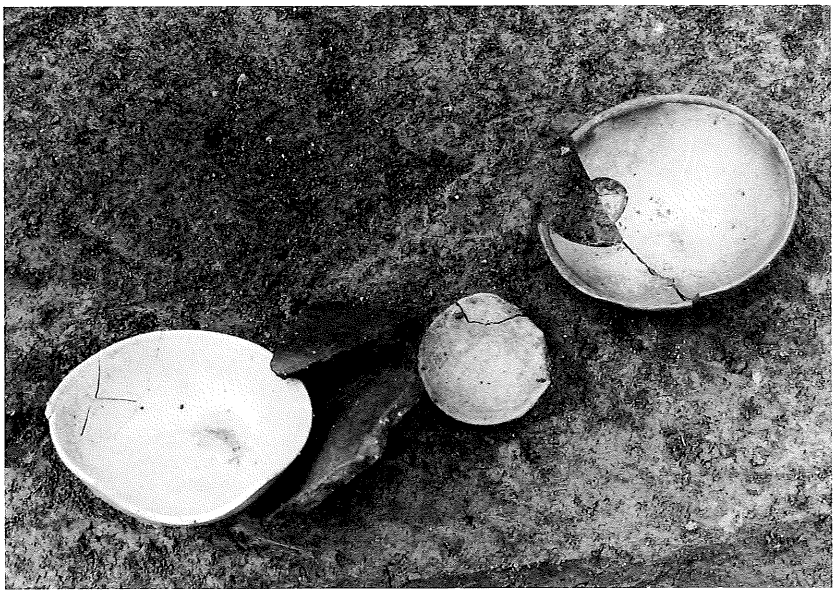
S029遺物出土状況



S029完掘状況



S108遺物出土状況



S108遺物出土状況

S066遺物出土状況

SK03完掘状況

SK04完掘状況

S042完掘状況

図版22

1

2

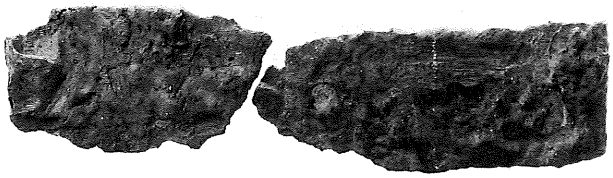
3

4

5

6

7



9

10

11

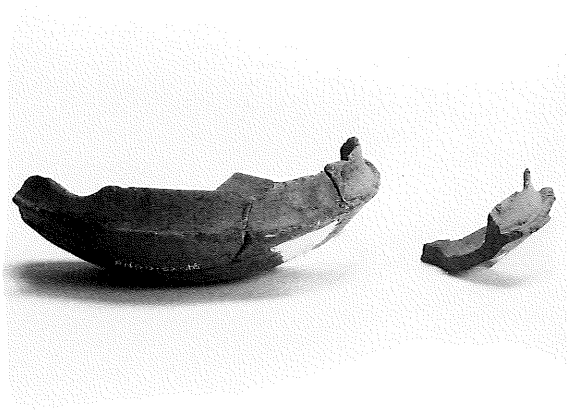
12

16

18

19

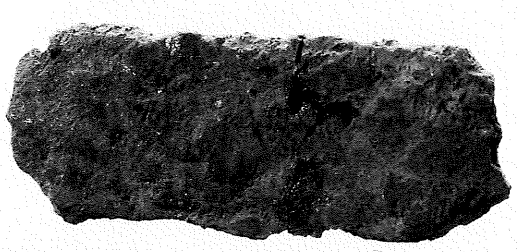
21

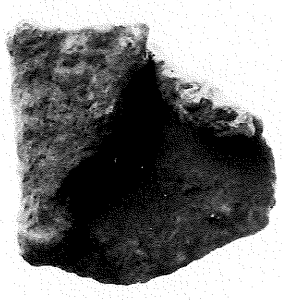


23，24

27

29

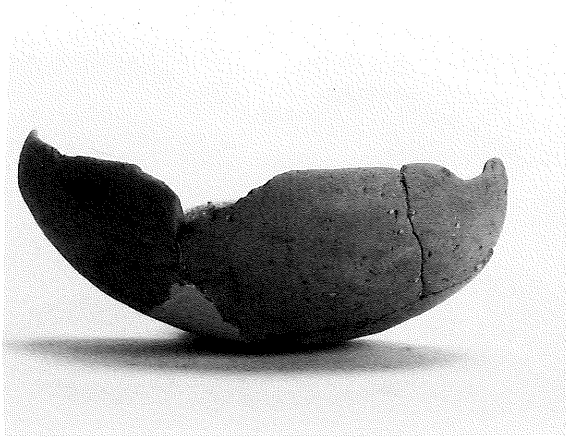




33，34

35

43



44

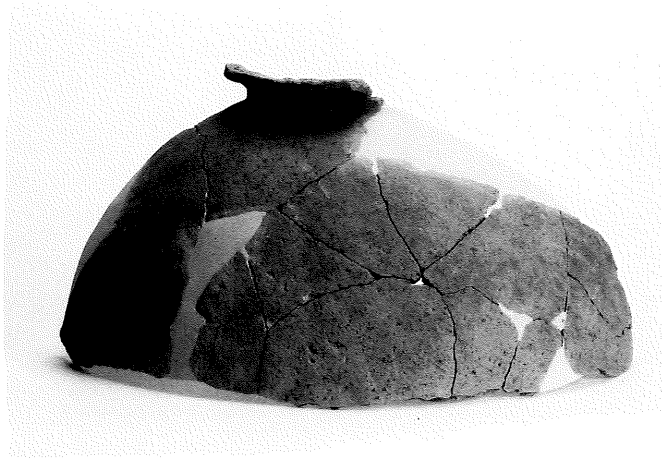
47

50

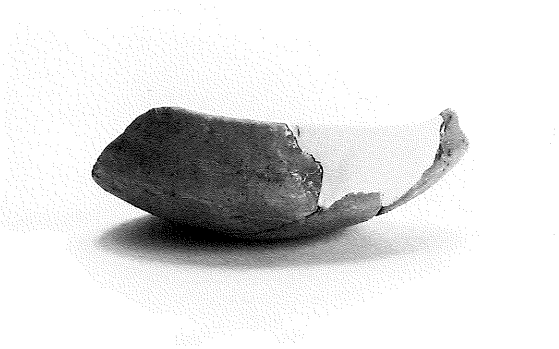
51

48

49



53



62

65

66

67

72

76

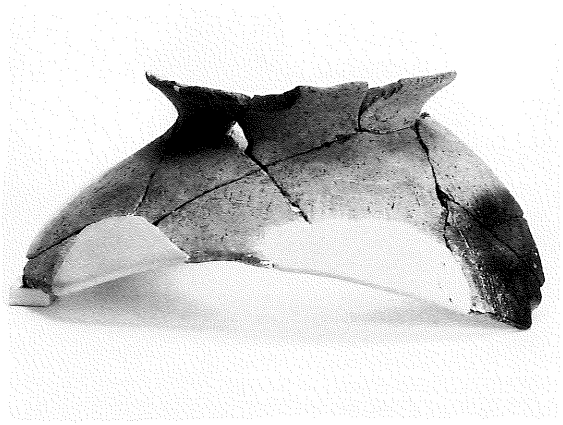
78

79

87

89

90



99

100

102

105

109

113

114

116

117

118

120

132

135

139

140

144, 143

159

160, 161, 162

160, 161, 162

163

164

図版31

173

174

182

185

188

193

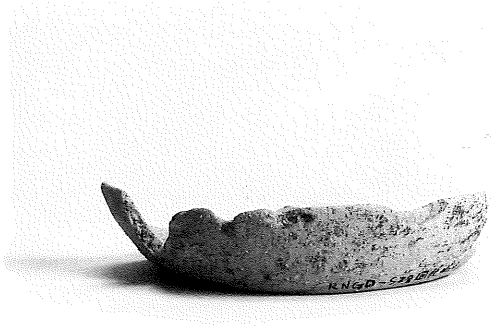
194

196

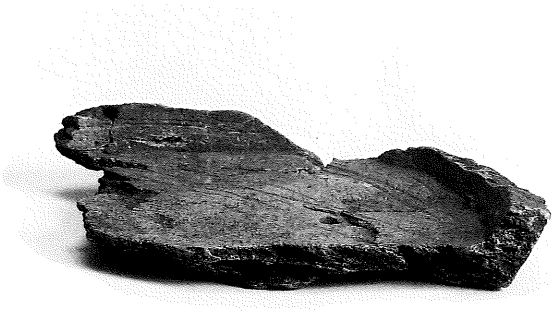
図版32

201

197



198



202

211

図版33

217

218

221

223

222

224

226

236

83

91

232

報告書抄録

ふりがな	いまみどういせき・ひらまちいせき・れんげいせき
書名	今見堂遺跡・平町遺跡・蓮華遺跡
副書名	都市計画道路築地立願寺線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	玉名市文化財調査報告
シリーズ番号	第10集
編著者名	末永崇
編集機関	玉名市教育委員会
所在地	〒865-0051　熊本県玉名市繁根木55-1
発行年月日	2002年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
今見堂遺跡	熊本県玉名市築地	43206	150	32°55'30"	130°32'05"	19971104 ～ 19989116	250	都市計画街路築地立願寺線道路改良工事
平町遺跡	熊本県玉名市築地	43206	151	32°55'46"	130°32'08"	19991101 ～ 20000115	487	
蓮華遺跡	熊本県玉名市築地	43206	161			20000115 ～ 20010331	2600	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
今見堂遺跡	集落	弥生時代後期	土坑	弥生土器	
平町遺跡	包蔵地	近世～近代	畝状遺構	弥生土器・土師器・青磁 陶磁器	
蓮華遺跡	集落	弥生時代後期 古墳時代中期 ～後期	住居、土坑 住居、土坑 ピット群	弥生土器・鉄器 土師器・須恵器・鉄器 石製品	
	寺院址	中世～近世	溝状遺構、土坑 ピット群	土師器・須恵器・青磁・鉄器 瓦質土器・瓦器・陶磁器 石製品	

玉名市文化財調査報告　第10集
都市計画街路築地立願寺線道路改良工事に伴う埋蔵文化財の調査
今見堂遺跡・平町遺跡・蓮華遺跡

平成14年３月29日

編集発行　玉名市教育委員会

印　　刷　株式会社　有明印刷
〒865-0022　熊本県玉名市寺田123-1
TEL0968-73-2055